

-見本-

確かめながら

学校図書館と1人1台端末

ひろがる! つながる!

学校図書館



全国学校図書館協議会

一見本一

刊行に寄せて

近年、学校においては、個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実、新型コロナウイルス感染拡大や災害等における教育の保障を実現するため、GIGA スクール構想が着実に進展しています。こうした状況の中で、言語能力や情報活用能力を育むとともに、多様な子供たちの読書機会の確保、非常時における図書等への継続的なアクセスを可能とするために、子供たちの健康や発達段階等に配慮しつつ、学校図書館等のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めていくことが課題となっています。令和5年3月に閣議決定された「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」においても、基本的方針の一つとして、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」が掲げられています。

学校において、1人1台端末の整備、通信ネットワーク環境の整備が進められ、学校内のどこにあっても、学校内外の様々な情報資源にアクセスできる環境が実現し、児童生徒の調べ学習等がより効果的に行われることが期待されています。また、1人1台端末の活用が定着した地域では、子供たちが、様々な情報源を、各自のタイミングで即時に扱う状況が生じるとの指摘もあります。こうした変化の中で、子供たちが、学校図書館、学校図書館資料、読書活動をどのように捉えるかを分析し、そのニーズに対応していく必要があります。

本書『確かめながら 学校図書館と1人1台端末 ひろがる！つながる！学校図書館』は、昨年刊行された『どう使う？ 学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』から、さらに内容を発展させ、ICTの進展を踏まえた学校図書館の活用について、具体的、実践的な解説をコンパクトにまとめています。本書が広く活用され、教師、学校司書、その他多くの方々が、子供の視点を尊重し、デジタル社会に相応しい学校図書館の整備に努め、多様な子供たちのために、読書活動推進の取組を展開してくださることを、期待しております。

最後に、本誌の作成に御尽力された諸先生方、全国学校図書館協議会に深甚なる敬意を表すとともに、学校図書館の振興と皆様方の御活躍を心より祈念申し上げます。

令和5年7月

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長

黄地 吉隆

一見本

もくじ

刊行に寄せて	03
はじめに	06

3-5	読書を積み重ね、発信する (1)	63
3-6	読書を積み重ね、発信する (2)	65
3-7	自立した読み手を育てることは自立した心を育てる	68
3-8	公共図書館等とつなごう	71
3-9	生きる力のための読書指導を学校ぐるみで実施しよう	72

第 1 章 端末時代において学校図書館ができること 07

1.1.	1人1台端末を利用して学校図書館ができること	08
1.2.	学校図書館活用の教育だからこそできること	11

第 2 章 ひろがる！つながる！新しい学校図書館を 17

	新しい発想で学校図書館を変えよう！	18
2-1	利用指導	20
2-2	オリエンテーション	22
2-3	多様な情報源を	24
2-4	パスファインダーも端末での活用を	26
2-5	レファレンスと受け方の指導	28
2-6	情報の信頼性	30
2-7	情報カードも種類を	32
2-8	発達段階に応じた情報活用を	34
2-9	活用場面に応じた情報活用を	35
2-10	著作権、引用と参考文献	36
2-11	教科等をつなぐハブとして	39
2-12	情報教育の体制作りを	41
2-13	連絡システムを作ろう	43
2-14	広報のデジタル化	44
2-15	教育委員会の活動	46

第 3 章 生きる力を育む学校図書館を 49

	読む力は生きる力！	50
3-1	使い分けよう！デジタル情報と紙の本	53
3-2	発達段階を考えて取り組もう	56
3-3	大いに生かそう学校図書館の場・蔵書	57
3-4	大切にしよう入学期！	60

第 4 章 学校図書館と著作権 73

4.1.	学校教育と著作権	74
4.2.	公衆送信とは	75
4.3.	著作権教育	77
4.4.	ICTの活用と著作権	78

【コラム】

* 学校図書館運営委員会を立ち上げよう	47
* それぞれの特質をおさえた活用を	48
* 体験で読書を深めよう	67

おわりに：ICT活用をつばさに 想像力を根っこに	80
--------------------------	----

●表紙写真提供（情報活用授業コンクール応募校）

横浜市立矢向小学校
大阪府・清教学園中学校
島根県大田市立大田西中学校
茨城県立水戸工業高等学校

はじめに

一見本一

今年5月にWHOから新型コロナの「緊急事態宣言終了」が発表され、わが国でも5類感染症へ移行となり、やっと落ち着いてきた感がある。コロナ禍と相まって学校に導入された1人1台端末の利用についても、怒涛のような慌ただしさが落ち着きを見せはじめたように感じられる。その中で、1人1台端末と学校図書館の関係はどうなっているだろうか。

学校図書館活用とICT活用が融合したように思うという学校現場の声を聞いたことがある。これは学校図書館界にとって大変嬉しい声であるが、学校図書館活用の影が薄くなった、ICT活用は学校図書館とは別のところで進んでいる、といった声も多く聞かれ、学校図書館の整備・活用の全国的格差がさらに広がっていることがひしひしと感じられる。

もっと、学校図書館の重要性を一般教職員にわかりやすく伝えなければならないと思う。ICT活用と学校図書館活用が協働して進んでいかなければ、子どもたちに真の情報活用能力を培うことはできないことを認識してもらおうよう働きかけなければならない。

学校図書館は印刷資料からデジタル資料まで多様なメディアの資料・情報を扱う。それを通して教科等横断的な視点をもっている。だからこそ、児童生徒に印刷・デジタルの特性を伝え、印刷とデジタルを使い分ける力を教科横断的に培うことができる。学校図書館は、児童生徒の情報活用能力を学校全体で計画的に培うことを提案できる立場にある。「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図る」(文科省「GIGAスクール構想の実現へ」リーフレット)のは、従来から両者を扱ってきた学校図書館だからこそできることなのである。

そのために、学校図書館活用とICT活用の融合を進めることが重要である。同時に、ICT活用を推進する一方で、学校図書館活用だからこそできる支援・指導の基本を確認しつつ進んでいくことも重要である。そのために本書では、ICT活用も含めて学校図書館活用の支援・指導について留意すべき点をまとめた。前著『どう使う？ 学校図書館と1人1台端末 はじめの一步』の「つぎの一步」として皆様にご高覧いただければありがたく存ずる。

2023年7月25日

『確かめながら 学校図書館と1人1台端末 ひろがる！つながる！学校図書館』
編集委員一同

第1章

端末時代において 学校図書館ができること

第1章

端末時代において 学校図書館ができること

一見本

②学校図書館から全員に配信ができる

- ・校内全員に同時に「図書館利用案内」や「図書館だより」、「お知らせ」等を配信する。

③学校図書館から特定の集団に配信ができる

- ・あるクラスや学年、教職員、図書委員会など、特定の集団に必要な情報を配信する。
- ・メールマガジンを運営する。

④オンラインで行事やイベント、交流が実施できる

- ・校内や校外、他校とのオンラインによるビブリオバトルや読書会等を実施する。
- ・他校と協働で創作活動をしたり、図書委員会の交流をしたりなどする。

⑤利用者からの投稿や回答などの受付・集計・分析等が行える

- ・POPなどのコンテスト等への投票を受けたり、結果を集計・分析したりする。
- ・図書館の利用者アンケートや、教員からの購入希望図書等を回収し集計・分析する。

(2) 端末の機能を利用した学び/授業への支援・指導

学校図書館担当者は、一斉学習、個別学習、協働学習等において電子黒板や端末をどのように使用してどのような授業を展開するのかについて、授業者の意向を確かめることが、まず大切である。そして学校図書館でできる支援・指導について相談・提案するのは、従来どおりであるが、端末という道具の利用で、できることが増え、選択肢が広がったために、学校図書館からの相談・提案内容も幅広いものとなってくる。例えば、次のようなことが可能である。

①授業で使える資料を、配信することができる

- ・学校図書館からの説明資料やパスファインダー、リンク集、二次元コード表、シンキングツール等を提供する。配布資料には、二次元コードの挿入を工夫する。
- ・各種データベース、デジタルコンテンツ等を授業内容に合わせて提供する。

②授業中でも端末から図書館にアクセスして図書館機能を利用してもらえる

- ・蔵書の検索、予約・貸出を行う。レファレンス・サービスを提供する。
- ・パスファインダーやリンク集等を利用して情報検索を行える。

③司書教諭や学校司書がオンラインで授業に参加できる

- ・資料紹介やブックトーク等を、オンラインで行う。
- ・児童生徒の授業の進捗に合わせて、コメントや助言をチャット等で提供する。

1.1.1 人1台端末を利用して学校図書館ができること

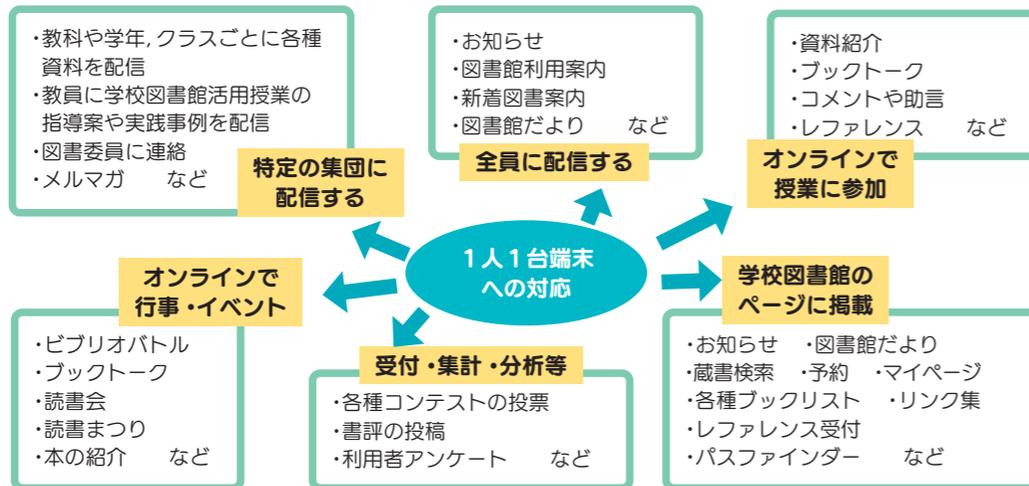


図1 1人1台端末への学校図書館の対応例

(1) 端末の機能を利用した学校図書館活動

児童生徒が1人1台端末を所持していることにより、その端末の機能を生かして、学校図書館はこれまでの活動やサービスに加えて、多くの新しいサービスや活動が可能となった(図1)。各学校で、どのような校内ネットワークシステムや学習支援システムを使用しているのかにもよるが、例えば、以下のようなことが可能となろう。

①学校図書館のページを通して情報発信やサービスが提供できる

- ・これまで印刷物で配布してきた「図書館だより」などを学校図書館のページに掲載する。
- ・「お知らせ」を随時発信する。
- ・情報検索や予約サービス、レファレンス・サービス等を端末を通して提供する。
- ・図書館の利用案内、図書館紹介等を動画でも提供する。
- ・新着図書等や展示を画像・動画などにより紹介する。